

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	15-016	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Health Behaviors of Cancer Survivors in Nationwide Cross-Sectional Survey in Korea: Higher Alcohol Drinking, Lower Smoking, and Physical Inactivity Pattern in Survivors with Higher Household Income.</p> <p>韓国・全国調査におけるがん疾患既往者の健康行動</p>		
執筆者		
Park B, Kong SY, Kim J, Kim Y, Park IH, Jung SY, Lee ES.		
掲載誌		
Medicine (Baltimore). 2015 Aug;94(31):e1214. doi: 10.1097/MD.0000000000001214.		
キーワード		PMID
がん、喫煙、飲酒、身体活動、収入		26252280
要 旨		
<p>目的： がん疾患既往者の喫煙および飲酒習慣、身体活動の状況と、健康行動に関連する社会・地理的要因を明らかにする。</p> <p>方法： 解析対象者は 2007 年から 2012 年に実施された韓国の国民健康栄養調査において、20 歳以上のがん疾患既往者 1,153 名とがん疾患既往のない 36,451 人とした。質問票により、がん疾患の病歴や健康行動、社会・地理的要因についての情報を入手した。</p> <p>結果： がん疾患既往者の飲酒率は 49%、多量飲酒率は 9%、喫煙率は 9%、身体活動を行っている者は 51%であった。がん疾患既往者が飲酒、喫煙、身体不活動である危険度は低かった (がん疾患既往のない者を対照としたオッズ比(95%信頼区間), 飲酒 0.45(0.36-0.56), 多量飲酒 0.53(0.36-0.78), 喫煙 0.37(0.24-0.55), 身体不活動 0.77(0.63-0.95))。高収入のがん疾患既往者は飲酒者の危険度が高く、喫煙と身体不活動の危険度は低かった。年齢、性別、がんの部位、がん疾患既往後の生存年数が健康行動と関連していた。また、これらの健康行動は相互に関連を認めた。</p> <p>結論： がん疾患既往者において世帯収入は健康行動に関連しており、また、不健康な行動は集積していた。世帯収入を考慮して、不健康な行動におちいり易い者を選出することが、効果的な介入プログラムに結びつくと考えられる。</p>		